

## 8 引当金

引当金－将来、ほぼ確実に発生すると思われる費用や損失で、当期にかかる分を予測して計上しておくもの。

### (1) 貸倒引当金

売掛金と受取手形は将来、全額が回収できるとは限らないので、経験則に基づいて将来の損失をあらかじめ見積もり、負債として認識する。

・期末時点での売掛金 1,000 円と受取手形 3,000 円に対し、2%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高が 15 円ある。

・前期に発生した売掛金 1,000 円が貸し倒れた。貸倒引当金が 400 円設定されている。

・当期に発生した売掛金 1,000 円が貸し倒れた。貸倒引当金が 400 円設定されている。

・期末における売掛金残高は 100,000 円、電子記録債権残高は 120,000、貸付金残高は 180,000 円であった。売掛金と電子記録債権については過去の実績に基づき 1%の貸倒引当金を設定するが、貸付金については、相手方の経営状況が悪化していることが分かったために回収不能額を 50%と見積もって貸倒引当金を設定する。

期末における貸倒引当金の残高は 1,500 円である。

(153 回 1 問)得意先東西商事株式会社が倒産し、同社に対する売掛金¥600,000 が回収不能となった。同社に対する売掛金のうち、¥400,000 は前期の販売から生じたものであり、残額は当期の販売から生じたものである。なお、貸倒引当金の残高は ¥320,000 であり、設定金額は適切と認められる。

※貸倒引当金の損益計算書での表示区分について

営業債権(受取手形、売掛金等)に対する貸倒引当金繰入は、「販売費及び一般管理費」に表示する。

営業外債権(営業外受取手形、貸付金、未収金等)に対する貸倒引当金繰入は、「営業外費用」に表示する。

### (2) 修繕引当金

建物や備品などの将来の修繕費を見積り、当期に属する分を負債として認識する引当金。

・今期に属する建物の修繕費として 1000 円を見積り、引当金に繰り入れた。

・翌年度、上記の建物の修繕を行い、2,500 円を現金で支払った。

【解答】

8 引当金

・期末時点での売掛金 1,000 円と受取手形 3,000 円に対し、2%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高が 15 円ある。

貸倒引当金繰入 65 / 貸倒引当金 65

$(1,000 + 3,000) \times 0.02 = 80$  円

$80$  円  $-$   $15$  円  $= 65$  円

・前期に発生した売掛金 1,000 円が貸し倒れた。貸倒引当金が 400 円設定されている。

貸倒引当金 400 / 売掛金 1,000

貸倒損失 600

・当期に発生した売掛金 1,000 円が貸し倒れた。貸倒引当金が 400 円設定されている。

貸倒損失 1,000 / 売掛金 1,000

・期末における売掛金残高は 100,000 円、電子記録債権残高は 120,000、貸付金残高は 180,000 円であった。売掛金と電子記録債権については過去の実績に基づき 1%の貸倒引当金を設定するが、貸付金については、相手方の経営状況が悪化していることが分かったために回収不能額を 50%と見積もって貸倒引当金を設定する。

期末における貸倒引当金の残高は 1,500 円である。

貸倒引当金繰入 90,700 / 貸倒引当金 90,700

(153 回 1 問)得意先東西商事株式会社が倒産し、同社に対する売掛金¥600,000 が回収不能となった。同社に対する売掛金のうち、¥400,000 は前期の販売から生じたものであり、残額は当期の販売から生じたものである。なお、貸倒引当金の残高は ¥320,000 であり、設定金額は適切と認められる。

貸倒引当金 320,000 / 売掛金 600,000

貸倒損失 280,000

(3) 修繕引当金

建物や備品などの将来の修繕費を見積り、当期に属する分を負債として認識する引当金。

・今期に属する建物の修繕費として 1000 円を見積り、引当金に繰り入れた。

修繕引当金繰入 1000 / 修繕引当金 1000

・翌年度、上記の建物の修繕を行い、2,500 円を現金で支払った。

修繕引当金 1,000 / 現金 2,500

修繕費 1,500

